

教授会自治への屈服(=試験への埋没)な、学生権利の実力主張(=無期試験ボイコット、封鎖貫徹)な、これこそな医斗争の全学化への一切の問題

□封鎖とは何なの？

我々は昨日、夜もあけやうな眠、教養の月館封鎖を決定した。4カ月になんかとする医斗争な、大学評議会というに大自主規制路線の壁にぶち当たる中、もはや最後の決断として封鎖を選んだ。それは何よりも、事の重要性と緊急性に大学当局の引延し、斗争圧迫策動の粉砕のために、選ばれるを得たのである。一切の斗争圧迫と防壁に、我々は断固として粉砕するまで引かぬであらう。

1128に医教授会との面交を以て引いた全学化基本綱領に拒否権、2月6日に交わされたその目録案こそは、今日の大学自治の教授会自治を根本的に批判し、変革するものであること、そして現在、医学部固有の問題としてだけではなく、全学の大学に在りて自治を問われ、この事態に対し、大学評議会は、既に学生対策委員会を行つてゐるにもなわく、医学部の学部自治会の侵害になるから、という理由で、一切評価を遅けさせたにもなわく、**「現行法規の枠を越えることは管理者であるからできないし、」**拒否権は大学(=教授会の自治)の権限がマじするし、**「という現行教授会自治を自己保存するためのだけの理由で、」**医斗争、拒否権斗争への圧迫のみを宣言してゐる。このよつな屈曲りを決して許してはならないであらう。

更に、大学当局は団交を引延すことになつて、試験→春休みに突入し、斗争を終末させようとする。このよつな時に封鎖は医斗争の全学化を目指して実行されたのである。

問題はここである。教授会自治への屈服(=試験への埋没)な、学生権利の実力主張(=封鎖貫徹)なである。その意味で、月館封鎖は教養の争い管理機能をマヒさせ、事実上試験延期を勝ち取り、実態的な拒否権の行使であることを確認させるであらう。

□大学当局の収拾策動を粉砕し、拒否権獲得に向け、無期試験ボイコット、封鎖貫徹せよ、
大学当局は、本日、破産にも、学外で秘密裏に校議会を行なうとしてゐる。引延し及我々の封鎖斗争によつて破産しようとしてゐる現在、斗争の高まりを恐れる大学当局は、学外で秘密裏に「対策」を思案しようとしてゐる。我々はこのよつな大学当局の学生への敵対、斗争圧迫を許さない。我々は大学当局に対し、クラス討説を広く深く行ない、無期試験ボイコット、封鎖貫徹を貫徹させようではないか。

教授会自治への屈服(=試験への埋没)な、学生権利の実力主張(=無期試験ボイコット、封鎖貫徹)な、これこそな医斗争の全学化への一切の問題である。

統一会議